

シグマ研究委員会ガンマ線生成核データ W. G.

昭和60年度第3回会合議事録

1. 日 時 昭和60年7月15日(月) 13:30~17:30
2. 場 所 原研本部第5会議室
3. 出席者 浅見, 五十嵐, 水本(原研), 肥田, 山室(NAIG),
八谷(三井造船), 井頭, 播磨, 北沢(東工大)
4. 配布資料
 - (1) 鉛の断面積評価 (C. Y. Fu and F. G. Perey ORNL)
Atomic Data and Nuclear Data Table 16, 409 (1975) (水本)
 - (2) Wの中性子核データ評価(浅見)
5. 一般報告(五十嵐)
 - (1) 本委員会関係の報告として, 1985年核データ研究会に中国から4名参加する予定であること, 各施設の測定装置を中心にポスターセッションを行なうこと。原子力学会秋の分科会でパネルディスカッションを行なうことが話された。
 - (2) 1988年核データ国際会議(日本)の計画。
 - (3) 核データ専門家会議を随時開催する案。
6. 議 事
 - (1) 鉛の断面積評価に関する Fu 及び Perey の論文が紹介された。それに関連して, pre-equilibrium process と DWBA の計算を加えても重複にならないのか, DWBA 計算は PEP 計算に含まれるのではないかという疑問が出された。また, PEP は離散準位が励起されるエネルギーではどのように取扱われるのかという疑問が出された。これらの事を明らかにするため, 井頭氏に PEP 理論のサーベイを行ってもらうことにした。また, GNASH による PEP 計算

は山室，水本両氏に検討してもらうことにした。

(2) 浅見氏からWの中性子核データ評価に関する話があった。

これに関連して，中性子放出とガンマ線放出を評価する人が異るとき入力する離散準位をどのように統一するかという問題が出された。また，JENDL-2において， σ_{tot} からきめたOMPが elastic scattering の角度分布を表現しないのが沢山あるので，今後OMPの探索には elastic scattering の角度分布のデータを考慮する必要があることが強調された。